

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック2016』にてご確認ください。

- ・ p. 4～5→学年暦
- ・ p. 10～15→通信教育部カレンダー
- ・ p. 45～48→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
- ・ p. 49～51→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

● 6/13～8/7について、追加・変更はありません。

夏期スクーリング受講にあたっての留意点

(1) 羽織る衣類等をご持参ください。

教室の冷房について、体感温度には個人差があるため、全ての方に快適な室温とすることは困難です。また、エアコンの吹き出し口付近の座席はかなり冷えることがあります。そのため、ご自身の衣類等や座席位置にて調節をお願いします。

(2) 健康保険証をご持参ください。

暑さや冷房等により体調を崩しやすい季節です。万が一に備え、持参されることをお奨めいたします。

レポートを「自分で書く」ということ

教員 MESSAGE

講師 清水めぐみ

1. 手書きかワープロソフトか

レポートでなくとも、まとまった文章を書くときに、パソコンのワープロソフトを使って書く人と、手書きする人とがあるようです。作家でいえば、パソコンのワープロソフトで原稿を書く人としては、村上春樹がすぐに思いつくでしょうし、一方、林真理子が原稿を手書きすることを大切にしていることもよく知られています。作家の手書き原稿では推敲のあとが生々しくうかがわれます。そのような手書き原稿をみるにつけ、手書きのものを判読しやすい形で誰かに見せるには、いかに手間であっても、清書という作業が避けがたいことがよくわかります。翻って、ワープロソフトで書かれた原稿は、見た目には整然として読みやすく仕上がっています。

とはいえ、ここでは、レポートを手書きではなくワープロソフトで作成したほうがいい、と言いたいわけではありません。確かに、ワープロソフトを用いると、原稿用紙の使い方を間違えるということはなく、一見読みやすいのですが、ワープロソフトゆえの難しさも伴うものです。ウェブ上の資料からは安易にコピーをすることができますし、教科書などの文献から引用する際にも文字を打ち込んでいけば、あっというまに目の前に広がる真っ白な画面を埋めることができます。すると、自らの身体を用いて時間をかけて考えながら文章を作っていくという過程が、ともするとおろそかになり、真に「自分の」文章ではなくなってしまう危険性が高くなるように思われます。

2. 自分の文章と他人の文章

レポートを書くことは、学術論文を書くこととは異なり、学問的に正しいことを研究成果として示すことを求められてはいません。課題で求められていることがらについて、自分が何を学び、どう理解して、何を提示したいのか、を明確に記述していくことが重要です。もちろん、学習の成果をまとめるのですから、明らかに理解が不十分で不正確な記述が評価されないことは言うまでもないのですが、レポートでは「自分が書いた」ということこそが、自分の学習成果になるのです。

とはいえ、大学で学ぶことを一から自分のことばで記述するということは不可能です。専門用語は、その定義づけを文献で調べて記述せざるを得ませんし、学ぶ内容そのものも、先人たちの研究の成果のうえに成り立っているのですから、それを参照しないわけにはいきません。それゆえ一層、自分の文と他人の文を明確に分けることが必要です。コピペは、もともとの所有者もコピペのレポートを読む人も欺くことになるからよくないのはもちろんですが、ひとさまの文章を丸写しして自分で書いたかのごとく装うことは、何よりも自分を欺くことになり、たとえ単位を取ることができたとしても、「自分」は少しずつ損なわれていくことになるという点において、何よりも「自分」にとってよくないのです。

3. 体裁を整えるルール

先人の述べていることを用いる際には、引用のルールを守って、自分の書いていることと他の誰かが書いたことを区分することが重要です。このことについては、『福祉心理学科スタディガイド』(<http://www.tfu.ac.jp/tushin/studyguide.pdf>)であまたの先生がおっしゃられています。引用の方法やレポートの書き方も含めて、ぜひそちらを参照してください。正

しく、レポートの体裁を整えることが、勉強の第一歩でもあります。

以上、述べてきたことは、ワープロソフトでのレポート作成に限らず、手書きでのレポート作成でも同様です。ひと文字ひと文字、教科書を書き写すとそれだけで理解が深まるようにも思われるのですが、残念ながら、それではレポートの体裁を成しません。

さて、手書きでのレポート提出にあたっては、レポートとして成立していない、採点以前のものが散見されますので、ここで申し上げたい記述上の留意点が2つあります。意味のあるまとまりごとに段落を形成することと原稿用紙を正しく用いることです。お察しのとおり、「」の“ ”で行を終わらせる、行の頭に句読点を持ってくる、2文字以上の数字やアルファベットをひと文字ずつひとマスに入れる、などは、誤った使い方、判読しにくくなります。正しい原稿用紙の使い方を身に着けて、「自分で書いた」レポートをまとめましょう。

かくいう私の大学時代は、技術的にコピペこそできない時代であったとはいえ、履修者の多い科目では、先生はどうせレポートを読まないだろう、適当な文章を書いておけばいいや、とお茶を濁しておりました。その際には、本を写すという労力さえも厭われたものです。レポートに目を通す労苦を今になってわが身のこととして実感するにつけ、またレポートからはそれを作成した人のお人柄がうかがわれることを目の当たりにするにつけ、どんな科目でも自分の文章として納得のいくレポートを書いておけばよかったと反省することしきりです。これから大学で学ぶみなさまには、その轍を踏むことのないよう「自分で書いた」と言えるレポートを作成されますよう念じております。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●公的扶助論 阿部 裕二 仙台会場

- ・ 貧困問題は他人事ではなく、誰にでもあることであり、現在はセーフティネットの網が薄くなり、滑り落ちてしまうことになっている。貧困の考え方、価値観、公的扶助の役割について授業を通して学ぶことができた。
- ・ 公的扶助は身近な問題で、誰でも要保護者になる可能性を持っている。ラストセーフティネット（最後の受け皿）の機能を持つが、他の社会保障が機能不全を起こしているために、受給者数が右肩上がりに上昇しているということも考えられる。もう一度公的扶助を含めた社会保障の全体像を自分なりに考えてみたいと思った。
- ・ 貧困問題は決して他人事ではなく、本当に明日自分の身に起こりえる問題として痛感した。豊かな日本において貧困問題などあるはずがないと思っている人も多数存在する。しかも貧困問題は自己責任として片付けられてしまう社会の風潮が根深い。しかし現代の貧困問題は本当に複雑で幅広く社会に浸透していると思う。今回のスクーリングを通して改めてより深く真剣に向き合わなければならないテーマであると感じた。

●高齢者福祉論 中里 仁 仙台会場

- ・ 何も分からず参加したが、受講生の話や事務局の方と直接話すことで安心できた。継続できる気持ちになった。
- ・ 先生の考えや高齢者介護への視点はとても共感でき、高齢者福祉の課題について改めて掘り下げて自分なりに考えるきっかけとなった。
- ・ スクーリングを通して、今の福祉の課題や問題点について知ることができてよかった。また、高齢者へのケアや施設にもいろいろな形態があることが分かった。

●社会福祉援助技術総論 佐藤 博彦 仙台会場

- ・ 実践と理論を結びつけるための学習という視点が、大切なことだと考えさせられました。今後は、様々な実践の機会を理論と結びつけ、またそれを実践に役立てられるようにしたいと思います。
- ・ 初めてのスクーリングで緊張しましたが、先生がとてもリラックスさせてくださる場面も多く、3日間あっという間でした。先生の言葉を1つでも多くメモしようと思い頑張りました。今回の講義のレジュメは他の科目にも出てくる内容なので何度も読み返してみます。